



平安時代中期の官吏。海賊。大宰少貳・藤原良範の子。また伊予前司・高橋友久の子で良範の養子となつたとする説もある。伊予国に伊予掾となつて赴任したが、任終了後も京に戻らず日振島(現、宇和島市)を拠点に海賊の首領となり瀬戸内海全域に勢力をのぼした。承平6(936)年、朝廷は、紀淑人を伊予守に任じ追捕使として派遣、海賊らに衣食を与え農業に従事させるという懐柔策をとり、純友にも海賊追捕の宣旨を出して海賊勢力の分断を図ろうとした。しかし3年後の天慶2(939)年、関東での平将門の乱とほぼ同時に、淑人の制止を聞かずに海賊に立ち戻り、備前介・藤原子高らの一行を摂津国須岐駅(現、兵庫県芦屋市周辺)で襲つて再び瀬戸内海一帯で反乱を起こした。翌天慶3(940)年2月、朝廷は純友に従五位下の位階を授けて懐柔策をとつたが、同年、平将門の乱が平定されると翌年2月、本格的な討伐に乗り出した。朝廷は、小野好古を長官、源経基を次官として追捕使に任じて討伐にあたらせ、純友の軍は紀伊国(現、和歌山県と三重県南部)、安芸国(現、広島県西半部)、周防国(現、山口県東部)などを襲うがしだいに追い詰められ、天慶4(941)年5月、大宰府(対外防備及び九州を総官するために現在の福岡県太宰府市に置かれた役所)を襲撃するが討伐軍に敗れて四散する。純友は、かろうじて本拠地の伊予に逃げ帰つたが6月、警固使・橘遠保に討たれた。

純友の乱はわずか2年たらずで終息したが、平将門の乱とともに武士の時代の到来を予感させるものであった。

## 略歴

承平6(936)年	紀淑人を伊予守に任じ追捕使として派遣、純友ら海賊への懐柔策をとる。
天慶2(939)年	藤原子高らの一行を摂津国で襲つて再び瀬戸内海一帯で反乱を起こす。
天慶3(940)年	朝廷より従五位下の位階を授ける。
天慶4(941)年2月	朝廷が本格的な純友討伐に臨む。
5月	大宰府を襲撃
6月	橘遠保に討たれる。

(浮世絵：愛媛県歴史文化博物館蔵)

〈関連図書〉

- ・『藤原純友の乱』 愛媛県文化振興財団 1987年
- ・『平成十年度企画展 純友と将門－東西の兵乱－』 愛媛県歴史文化博物館 1998年
- ・岩井市史編さん委員会『新装版 平将門資料集 付・藤原純友資料』 新人物往来社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P201, 35)

〈ゆかりのある場所〉…(P274, 41～42)

〈関連施設〉…愛媛県歴史文化博物館

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL: 0894-62-6222